

～あした、転機になあれ！～

美ら島 哲樂さびら。

職場を元氣にする哲樂レシピ その九

キーワードは「楽笑合一」！

もつと「樂」を見つけよう！

「樂笑合一」

これは、私のキーワードのひとつです。大学で学んだ陽明学の「知行合一」にヒントを得てつくりました。「知ることと『行う』ことは、別々ではなく一つのこと」というのが、知行合一。

楽しい・笑顔について考えるとき、楽しければ自然と笑顔になるもので、笑顔だけを出そうとしても不自然。表情は、心の表れだから。私が「職場に笑顔がない」と、ご相談を受けたとき、笑顔がないことよりも、実は、その職場に「楽しさ」を感じられていないことが問題だと、考えています。

もしも、その職場の一人ひとりが楽しさを見出し、ワクワクしながら過ごせていたなら、たとえ誰かに止められたとしても、笑顔はにじみでくるものだと思うから。自分自身や職場に笑顔が足りないと感じたときには、「楽しさ」が足りないことに目向けることが大事。私は、そう考えていました。

「顔立ち」よりも「顔つき」

私の友人で「魅力研究」を行っているトータルスキンケアアドバイザーの上村晃一郎さんの言葉に、ハッとしたしました。顔立ちは変えられ

ないけれど、顔つきは大きく変わる。

これまでに、さまざまな職場で転機に出会い、実感していたことでした。

顔立ち・年齢・立場はさまざまなものでも、研修や売場などで「楽しい！」という言葉が飛び交う場では、顔つきが共通していることに気づきました。ヒントをくれたのは、写真。講師である私も含め、みんな

共通の「ワクワク楽しそうな笑顔」だったのです。

「接遇の先生と聞いたので、鬼のように厳しい方が来るのはと思つていました」

何度か、そう言われることがあります。(笑)。また、笑顔といえば、割り箸を加えて、口角を上げる練習を思い浮かべた方も多いようです。

でも、口角は表情のごく一部。そして何より、人が相手の笑顔を判断するときにチェックしているのは……

「口角よりも目元」であり、顔立ちよりも、もっと全体的な雰囲気だと感じています。口角だけでは、だまされない(笑)。売りつけようとか、相手を自分の思う通りに動かそうといった疑惑は、思いのほか、鋭く見破られてしまうものです。

楽しさ・生き生き・ワクワクに根ざした笑顔は、花束よりもずっと力があり、枯れることはありません。そして、タンポポの綿毛のように広がっていきます。

楽しい職場の風土が生まれれば、自然に接遇は改善されるはず。「楽しい」には「笑顔」がセットでついでます。

接遇の先生と聞いたので、鬼のように厳しい方が来るのはと思つてきました

ますが、顔つき・特に「笑顔」については、好みで分かれることはほほんのでは? 少なくとも、私は「笑顔がキレイ」と言う人に会つたことはありません。

接遇とコミュニケーションヒメンタルヘルス対策など、職場ではさまざまな研修が行われていますが、職場に笑顔が生まれるために知識量よりも顔つきに変化が起つります。

もつと根本的な部分にアプローチする場が必要だと思っています。

最近気づいたのは、笑顔やヤル気のスイッチの仕組み。「押してオンになる」ものではなく、上にピョンと飛び出すとオンになるのだと思います。ストレスや不安・不信感・コミュニケーション不足などがあると、それがスイッチを押し下げてしまい、オフになる。乗っている重さを取り除けば、またピョンとオンになります。そんな仕組みだと思うのです。

あなたの「準備」には
欠かせないのは
何ですか?

笑顔もヤル気も元気も、消えることはない。隠れてしまうことはあるけれど、きっとちゃんとそこにある。

私は、そう信じています。

人の心と向き合つて11年目。あらためて「楽しさ」という根っこに注目しているところです。ピヨンとスイッチ・オンの瞬間を楽しみにしつつ。あした・転機に、なあれ!



紀々(きき)

哲学家。那覇市出身。1998年に早稲田大学第一文学部哲学科東洋哲学専修を卒業。「自ら考え、自ら動く力を磨く社員研修を」との依頼を受け、「哲樂のチカラを、笑顔のチカラに」をテーマに、さまざまな企業現場でサポートを行っている。特に「若手リーダー・女性スタッフがイキイキ元気に働ける職場づくり」を哲樂する研修は、好評。現在は、沖縄の表現で「Let's 哲樂」を意味する「哲樂さびら。」を合言葉に、沖縄発で職場に哲樂習慣・風土を広めるべく活動を展開中。